

美濃で『うだつ』について考える

「まったく！あんたはいつまでたっても『うだつ』が上がらないんだからね。やんなっちゃうよ！」

世の奥様方が出世の遅いご亭主に向かって言いそうなセリフです。（小沢昭一風に）さて世のおとうさん方を震撼せしめる、この『うだつが上がらない』の一言！いったいこの『うだつ』とはいったい何なんでありましょか？

「え～、小沢さ～ん。確かにボクはうだつは上がりませんがね、☆●◇は年とってもピンピンっすよ～へっへ～」何言ってんでしょね、この人は。

宮越おとうさんは自分の知らないことについて話を持ちかけられると、このようにシモの話で逃げるのがお得意のようであります。知らないんでありますね『うだつ』について。

ってことで、本日は『うだつ』について考えるのココロだ～。

（ちゃ～らちゃちゃちゃ、ちゃらら～ん）

美濃市（JTB新日本ガイドより）

岐阜県南部中央に位置し、美濃紙の本場として知られる。古くは上^{こうずち}有知と呼ばれ、小倉山城の城下町として発達した。往事は長良川の水運を利用した紙や生糸の集散地として栄えた。かつては町の西方、大矢田に美濃紙専門の市が立った。現在は障子紙・美術紙などが伝統技術によって生産されている。

ということで美濃市は美濃紙の生産がたいへん有名なのであるが、また一方、『うだつ』の美しい街並みが残っていることでも有名である。

何となく『うだつ』について分かってきましたか。そう、建築用語なのですね。

漢字で書くと**卯建**です。私が『うだつ』について知っているか、と尋ねたところ、知っている人は、10人中わずか2人。正確に知っている人は1人だけでした。

さて、この卯建、形は写真を見ていただくとして、何のためにあるのでしょうか？

軒と軒の間に壁があってその上に屋根。まったく無意味のようです。

もともとは防火のためであるとか、家の境界をハッキリさせるためとかに作られていたようなのですが、防火にしても境界にしても、卯建があるからといって、そう効果のあるものではありませんね。ですから一言で言ってしまうと、『不必要』なものなのですね。

不必要な飾りに金をかける庶民はいません。ですから逆に言えば金持ちのステータスシンボルであったわけです。金もたまったことだし卯建でも上げようか、という程度のもなのですね。



ですから『うだつが上がらない』とは、質実剛健という意味にも使えますね。奥様からのご指摘に対する反論として覚えておかれると良いのでは？

よけいなお世話でした。